

対象課程		科目名		単位	科目コード	開講時期	授業科目区分		
修士課程		高齢者心理学特論 Psychology of Aging		2	8944-01	後学期	関係科目		
担当教員名		研究室	内線電話番号	電子メール I D			オフィスアワー		
キーワード		授業科目の学習目標							
1	高齢者	臨床現場で出会う高齢者の心理学的諸課題（心理的、身体的、社会的、実存的側面等）を取りあげる。受講者が高齢期の心理学的特徴、高齢者との対人関係を深める方法、介護者である家族との関わり方など、心理学を基礎とした専門職（臨床心理士等）になるにあたり学んでおくべきテーマについて、集団討議・発表、体験学習など演習的方法を取り入れながら理解を深めていく。							
2	生涯発達								
3	支援								
4	連携								
授業の概要および学習上の助言									
<p>講義内容は、大きく2つの領域に分かれる。</p> <p>第1部では高齢期の諸課題として身体・精神機能の特徴、高齢期に特有と考えられる老いの受容と間近に迫りくる死との対面、高齢期における生きがいという現在の高齢化社会において大きく取り上げられている話題を考察する。</p> <p>第2部では、高齢期の特徴を把握する道具としての心理学的アセスメントと支援方法としての心理学的介入を知り、個々の高齢者を理解し支援するための視点を学習する。具体的な心理学的アセスメントの道具として取り上げるのは、Mini-Mental State Examination(MMSE)、改訂長谷川式簡易知能検査(HDS-R)、Neurobehavioral Cognitive Status Examination(COGNISTAT)、ウエクスラー成人知能検査第3版(WAIS-III)、ベントン視覚記憶力検査、コース立方体検査等を紹介する。具体的な心理学的介入としては、回想法、家族療法・ブリーフセラピー、臨床動作法を中心に取り上げる。その他の心理学的介入法についても紹介する。また臨床心理士になったという想定で高齢者にとってどのような支援方法によってどんな支援を経験するのかを考える機会となるように、模擬面接を交えた体験学習形式の演習に参加する。最後に高齢者を取り巻く支援体制(福祉行政サービス、老人保健施設、精神科病院など)についても知る。</p>									
教科書および参考書									
<p>教科書：佐藤泰正ほか編著 高齢者の心理 おうふう ISBN978-4-03672-0 [2011] 参考書：権藤恭之編 高齢者心理学 朝倉書店 ISBN978-4-254-52675-2 [2008]</p> <p>J. J. ヘル・J. H. ウィークランド 老人と家族のカウンセリング 金剛出版 ISBN4-7724-0517-8 [1996] など上記の他に教員が作成並びに用意した資料を使用する。</p>									
履修に必要な予備知識や技能、および一般的注意									
<p>発達心理学に関する基本的知識を有していることが望ましいので、入門書程度の文献には目を通しておくこと。さらにマイクロカウンセリングによる面接技法を習得できていること。</p>									
No.	学生が達成すべき行動目標								
①	高齢期にみられる身体的・精神的・心理学的・社会的・実存的な特徴を文章で説明できる。								
②	高齢者に対する臨床心理学的支援方法を文章で説明できる。								
③	高齢者に対する臨床心理学的支援の方針を立てることができる。								
④	高齢者に対する心理査定について文章で説明できる。								
⑤	高齢者を取り巻く福祉・行政的施策について文章で説明できる。								
⑥									
達成度評価方法（総合評価割合）									
	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
配点	0	30	50	10	0	0	10	100	

- 第1週(/)
 (1) オリエンテーション-高齢者に対するイメージ・担当文献の割り当て
 (2) 発達心理学のおさらい-Erikson, E. H. の理論を中心に
- 第2週(/)
 (1) 高齢期における身体・精神機能の特徴-健康概念の変遷を含めて
 (2) 老いと死について-spiritualの観点も含めて
- 第3週(/)
 (1), (2) 高齢期における心理学的な特徴-概説と生きがい
- 第4週(/)
 (1), (2) 高齢者研究の動向を知る I (担当者による文献紹介)
 実施: 成果発表(10点); 資料の内容に加えて形式も評価対象
- 第5週(/)
 (1), (2) 高齢者研究の動向を知る II (担当者による文献紹介)
 実施: 成果発表(10点); 資料の内容に加えて形式も評価対象
- 第6週(/)
 (1) 高齢者の心理査定概説(HDS-R, MMSE, コース立方体, 三宅式記銘, ADAS, WMS-R, COGNISTATなど)
 (2) 高齢者の心理査定の実際-その1
- 第7週(/)
 (1), (2) 高齢者の心理査定の実際-その2
 実施: 小テスト(15点); 前週までの内容
- 第8週(/)
 (1), (2) 高齢者に対する心理療法の概説
- 第9週(/)
 (1) 高齢者に対する心理療法を学ぶ-回想法
 (2) 回想法を体験する
 ※受講者は、自らの思い出の品(写真など)を持参すること
 課題(次回提出): 小レポート(10点); 回想法について
- 第10週(/)
 (1), (2) 高齢者に対する心理療法を学ぶ-家族療法・ブリーフセラピー
- 第11週(/)
 (1), (2) 家族療法・ブリーフセラピーを体験する
 課題(次回提出): 小レポート(10点); 家族療法・ブリーフセラピーについて
- 第12週(/)
 (1) 高齢者に対する心理療法を学ぶ-臨床動作法
 (2) 臨床動作法を体験する-その1
 ※受講者は、ズボンなどの動きやすい服装で受講すること
- 第13週(/)
 (1), (2) 臨床動作法を体験する-その2
 ※受講者は、ズボンなどの動きやすい服装で受講すること
 課題(次回提出): 小レポート(10点); 臨床動作法について
- 第14週(/)
 (1), (2) 高齢者を取り巻く支援体制の概説
- 第15週(/)
 (1), (2) 全体の総括
 実施: 小テスト(15点); 前週の内容
 提出: 最終レポート(20点); テーマ「高齢期とそれ以外の世代への心理的援助の共通点と相違点」
- 第16週(/)
 (1), (2) 自己点検授業

特記事項: 課題と評価方法

- a) 小テストは、講義内容について知識を問われる。教科書や配付資料を熟読の上で望むこと。
 b) 小レポートは、講義・演習で学んだ特徴と体験した感想について、A4用紙1、2枚程度で報告してもらう。
 c) 最終レポートは、授業内容や各自で収集した文献を活用してA4用紙2枚以上で作成してもらう。なお学外から文献を取り寄せる必要があれば担当教員に申し出ること。学期末は、課題が集中するので、計画的に作成を進めること。
 d) 講義に対して積極的に参加する姿勢や質疑応答についても評価の対象となる。

達成レベルの目安

理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
高齢者の特徴を心理面、身体面、社会面、実存面といった多面的な観点から文章で記述できる。その特徴を把握するための査定から支援計画を立てることができ、具体的な支援方法について記述ができ、さらに予想される事象が複数記述できる。	高齢者の特徴を心理面、身体面、社会面、実存面といった側面から文章で記述できる。その特徴を把握するための査定と支援方法について記述できる。